

○「第3期中期運営方針」の評価（案）についての意見交換

【ファシリテーター】

- ・第3期中期運営方針の評価（案）について何か意見があれば、発言を願いたい。

【A 委員】

- ・（事務局から）「8つの未来」に対して評価案を出して頂いたが、この「8つの未来」の中でもやりやすい部分、やりづらい部分、すぐに効果が見えやすいもの、など濃淡があると感じた。
- ・（8つを）全部を一様にやらなければならないわけではないと思う。
- ・その点も、上手く評価に組み込んで、やりづらいものや、見えにくいものも、継続できるようにしていくのが良いと思った。

【ファシリテーター】

- ・「8つ未来」で、最初にやりやすいものから進む、あるいは難しいものは後で、というような形で、考えると良いのではないかということですね。
- ・この意見について、話を展開していきたい。

【B 委員】

- ・第3期中期運営方針で掲げている「8つの未来」は、第1期中期運営方針の頃からずっと変わらずあるものなのか？

【事務局】

- ・「8つの未来」は、1・2期中期方針には無い表現。第3期方針で初めて出てきたもの。
- ・そういった経緯もあり、（本日の会議の）はじめの説明で、はっちが何のための施設なのかという点や、はっちのミッション・コンセプトを説明させていただいた。この点が一番大事だと思っている。
- ・第3期方針で掲げる「8つの未来」は、はっちの運営というよりも、はっちが“八戸の街として目指すもの”に対してどう取り組んでいくかという大きめの目標のようなものと思っている。

【ファシリテーター】

- ・第1、第2期方針を経て、はっちの役割を考えて（第3期方針で）新たに生まれたのが、この「8つの未来」という捉え方ですね。

【C 委員】

- ・はっちでは、様々なイベントや事業を行っている。

- ・はっちでは新しい企画活動を生み出していて、例えば、個人の活動とはっちが連携する事業があるが、はっちとしては、（連携した）事業で活動が生まれて活躍するようになった人材が、はっちを飛び出していくという点に対してポジティブなのか？それとも、はっちを起点に活動を行ってもらいたいのか？ というところが気になっている。

【事務局】

- ・はっちのミッションとしては、「街を元気にする、人を元気にする」というものがあるので、そのきっかけとして、はっちでの事業を1つのステップにして、自主的な活動をするようになるのが理想的と考えている。
- ・しかし、そこまでは至っていないというのが課題。

【D 委員】

- ・八戸市は広いので、中心街だけでなく、（連携した事業をきっかけに活躍するようになった人材が）どこかで何か活動をされている場合や、新しい活動を生み出されていることもあるが、どこまで（はっちとして）追いかけていくのか？
- ・はっちの事業をきっかけに、活動が循環してほしいという思いがあると思う。
- ・市民活動をして難しいことは、何かきっかけがあったからといって、すぐに何かを活動を起こせるわけではないということ。
- ・次につながるものや、循環していくもの、の基準が難しい。
- ・何か作るのも難しいし、評価するのも難しい。

【事務局】

- ・そうした状況でも、次に向かって考えていく、そうした姿勢が重要だと思う。

【E 委員】

- ・いつも（はっちを）間近に見ていると、はっちの事業は多種多様で、すごく大変だと思う。
- ・これだけの事業を、スタッフと職員だけでやっているのはすごいこと。それは「こどもはっち」も同じことがいえる。
- ・「こどもはっち」は、子育ての施設で福祉分野だが、「はっち」にいるからには、普通の施設ではいけないと思っている。
- ・こどもはっちはNPO 法人なので、どれだけまちづくりに福祉的なことを提供できるか、集まって来た若いお母さん達に何を提供して、何ができて、それが次の何に繋がって、それがまちづくりにどう関係しているのか、あるいは近隣の同じ施設の方たちとどれくらいタイアップできるかなど、それを事例に変えていっている。
- ・私は、はっちの開館当時からいるので、端で見ていて感じたことは、開館当時は予算も多くあり、やらなければならないというものもあった。しかし、それを15年間同じ形で継続していくのは、まず無理だと思う。

- ・市民活動団体も同じだと思うが、その中で育ってきた人材の方たち、市民の方たちを協働で、盛り上げていくかというのが、やはりその進化につながると思う。
- ・例えば、これから行う事業に関しても、はっちの事務室だけで企画して運営する、というところを離れた方が良いと思う。
- ・今まで繋がってきた市民活動や個人でも良いが、その人たちと、次何ができるかっていうところの視点が、もう少しあった方が実は良い。
- ・それは実をいうと「こどもはっち」でとても感じていること。
- ・「はい、全部サービスで提供してやりました。」で終わってしまうと、下降線になると思っているので、その育った人たちと次一緒に何ができるのかというところまで、子育ての分野でも考えていかなければいけないと思っている。
- ・つまり、関わった人たちと一緒に楽しむだけではなく、学んだものをどう還元するかというところに、踏み込む時なのかなと「こどもはっち」でも考えている。
- ・それははっちも同じで、チャレンジしているが、なかなかそこが見えてこないところが、同じジレンマだと思う。
- ・例えば「こどもはっち」は、発足当時に“おもちゃ病院”を立ち上げたが、当時八戸市にはなかった。
- ・「こどもはっち」で立ち上げて、講習会や人材育成を行うと言ったら、ボランティアの方が結構集まった。これはほかの地域と比べて八戸市は生涯学習で育った方たちが多いから。
- ・そのため2年目には独立してもらった。
- ・もう「こどもはっち」で抱えていても何もできないので、その代わりに、今も必ず月に1回は協働してもらい、はっちの会場を借りて“おもちゃ病院”事業を実施している。
- ・その後、その人達がどうなったかと言うと、青森県内の“おもちゃ病院”の中でもすごい活動している存在になり、他の市町村のお手伝いに行ったり、他の（団体の）立ち上げのお手伝いしたりするようになった。
- ・これは（おもちゃ病院の）皆さんが頑張った成果だが、私達としても、一番最初のきっかけが「はっち」だったというのは、誇りでもある。
- ・なので、はっち自体の資源がそのようになるもいいのでは（と思う）。
- ・例えば「まちぐみ」なんかは独立しても良いのかなと思う。
- ・逆にはっちで抱え込むことによって、もう少し何かやらなければならない、みたいなのところも出てきてしまう。
- ・しかし独立することによって、「まちぐみ」が持っている本来のミッションをもう少し肌で感じれるのかなと思う。客観的に見るからこそ、事業についてこうした方がいいと言ってあげることができる。
- ・こうした意見は、市の内部から言えない。（なぜなら）自分達の事業だから。
- ・私自身は（こういう意見を）もう少し言っても良いかと思っている。
- ・今は具体例として言ったが、次の計画では、もう少し1歩踏み込んだ、何かがあった方が、市民の理解も得やすいのではないかと感じている。

【ファシリテーター】

- ・E委員の意見は、すごく貴重で、コミュニティというのはイベントに参加したことを契機に、新たに外に出て、それでまた違う人材が、また違うコミュニティを作ってもらって、それがどんどん展開していったら、コミュニティが作られていくという風になる。
- ・参加することで、八戸市に対する意識というか「シチズンシップ」が高まっていくのではないかなと思っている。
- ・「こどもはっち」でいうと、親御さんたちの公園デビューの代替案として、こどもはっち（デビュー）というのがあるかなと思っている。
- ・「こどもはっち」に集まった親御さんたちが、まずワイワイガヤガヤして、また別のコミュニティを作ってもらえれば八戸市に対する意識が高まって、それが発展していくのかなという風に。そういう意味で、独立してまた別のコミュニティを作ってもらえれば良いのかなと思っている。
- ・それがはっちの意義で、いろいろ事業があるが、そうすることによって参加した人たちの意識をまた変えていく、それが大切なのかなと思います。

【F委員】

- ・先日（9/27・28）ブックフェスがはっち・マチニワを会場に開催されたが、マチニワに出展していた「ZINE（ジン）」という活動をしている人がいた。
- ・「ZINE」は、自分で小冊子や自分で撮った写真、写真がメインの小冊子やイラスト、小説を書くなどの活動している人達のこと。
- ・これは美術館とブックセンターの事業のタイアップで、他の町で「ZINE」を作っている人から話を聞くとところから始まり、作る場所のワークショップをやって、今はもう自分たちで作品を作って、ブックフェスの時に販売をしたり、イベントに限らず、自分たちで独自に活動したり、自分で「ZINE」をどんどん出している人たちもいる。
- ・また「白窓の明かり」という、映画館が無くなった後に映画の上映をしようという構想をしている人たちの活動や、「ばんらぼ」という八戸工業大学のスペースで八戸学院大学の崔先生と一緒にトークイベントをしたが、評価案の課題に書かれている「新しい活動を生み出すまでには至っていません」とか、「組織化されていません」というのはよく分かる。
- ・「ZINE」とか、「白窓の明かり」のようなレベルに行くところまではっちとしてもサポートし、その人たちも独自に動いて、はっちは場所をお貸ししたり、年に1～2回何かの企画でコラボなどすれば、お互いにウィンウィンで、楽しく付き合っていき、育ってくれる。
- ・こうして育った団体がある時は、街中の空き店舗を使う、また、ある時は美術館やはっち、中心街を使う。
- ・私達のはっちを作るときから、「そういえば、八戸は、アートNPOがあまりない」「行政がやりすぎているから、こういう活動する人達が出てこないんだ」と言う人もいる。
- ・また個人でやっているから、組織化はしてないという人もいる。
- ・美術館やブックセンターなど施設は増えているが、まだ、そういう独自に動いてくれる人たち、一緒に動いてくれる人が大事だということで、色んな動きをしているとは思っているのだが。改めてはっちの方でも、イコールパートナーシップを組める人を意識的に作っていくというのか。

- ・事務局を全部はっちで抱えてしまうことがちょっと心配もあるものの、任せるとか、一緒にイコールパートナーシップというのはなかなか大変な部分もあると思う。
- ・しかし、そういうことを次のタイミングで意識化していくということが、結果としてコーディネーターや職員の人達も事業が増えたから忙しくなったということではなく、事業は増えるけれども適度な関わり方で、うまく回っていくって言うような仕組みをどうやったら作れるかという視点で考えていくと良いのかなと。

【G 委員】

- ・もう少し詳しく聞きたいのだが、趣味などの集団やグループがいて、それをはっちがバックアップするという構造、形ということなのか？

【H 委員】

- ・それもある。
- ・今、（はっちにおいて）コーディネーターと呼ばれる人は「企画運営グループ」に所属する人メインだが、貸館（業務に携わる）のコーディネーターもいる。
- ・はっち開館当初のことで思い出に残っているのが、1階の「ギャラリー1」や「はっちひろば」で、草月花や生け花の方達が、とても大きい生け花を作り、その周りでダンスする人がいた。
- ・生け花の本部の会議などで仙台や東京に行くと、和室ではない大空間で生け花をしたり、そこで他のパフォーマンスと合わせたりというのを見たことはあったが、八戸ではないだろうと思っていた。
- ・はっちが建てられてから、それまでやったことなかったけどやってみた、というような話をされていた生け花の関係者がいた。
- ・もちろん、自由に借りて使って頂くというのものもあるが、その時に、貸す側も一緒に少し企画を考えてあげるような、はっちが全部0から企画するのではなく、貸館利用者のサポートをしてあげる、コーディネートをしてあげる。
- ・中心街に、はっちだけ施設があった時期とは違い、（今は）美術館や他の施設ができたので、はっちを借りたら自分達の活動自体もレベルアップしたと感じてくれるようになると理想的かなと（思う）。

【I 委員】

- ・素敵な話だなと思った。
- ・というのは、私は普段カンフーをしているが、そのカンフーの価値みたいところは、あまり分かりにくい。それこそ生け花の周りでダンスを踊るっていうのは、もしかしたら生け花の方からしたら、和室の中で花を生けて、作品を1つ作り上げるところが、代々受け継いできた1つの価値だと思っていたが、生け花を大きな空間（ギャラリー1、はっちひろば）で作って、そこに何か手を入れないと交わらないような、ダンスと生け花みたいところがこう混ざり合うっていうのがすごく素敵だなと思った。

- ・以前、サクスを吹く人とコラボしたことがあったが、自分からサクス吹く人を探して、「ちょっと演奏してくれませんか？」と聞くのは難しかったり、（そういう）発想が出てこない。
- ・なので「そんなことできないでしょ」みたいなことを、はっちのコーディネーターが色々な方を知っていると思うので、そこをサポートしていくような取り組みがあると、個人的にはとても助かる。
- ・またそこが拠点になるので、すごく良いなと感じる。
- ・そういうものは、これまで無かったのか？

【事務局】

- ・無いわけではない。
- ・今まで、はっちの企画グループに多くのコーディネーターがいて、はっちを卒業した後、アートのような活動を継続している方もいる。
- ・そういった視点で、はっちの事業自体も考えていくようにしている。
- ・また、はっち自体が、文化芸術だけでは無く、例えば観光や中心街の活性化のためなど、皆さんが見る視点によって、はっちは違うカラーになる。
- ・色々なご意見頂く中で、取捨選択し、やれることを考えてやっているという中で、どのように見られているかというのを皆さんから意見を伺いながら、次はどうして行くかというのを考えていくことかなと思っている。
- ・アート系のAIR（アーティストインレジデンス）で、昔、騎馬打毬を取り上げた。
- ・アーティストの方が滞在した時に、騎馬打毬保存会の形とか、後はロボコンテストみたいなことをやった。騎馬打毬×ロボコンみたいな感じで、そこでたくさん市民の方に面白いなと思って貰い、機運を醸成しながら。
- ・いきなり騎馬打毬だと、皆さんがすごく詳しく知っているわけではないので、三社大祭の時に、応援だったり、馬と人間がこう関わって来た歴史とか、そういったことを放送トークイベントをしながら盛り上げ、最後2月には、ロボコン、騎馬打毬のロボットでやったことがあった。
- ・それはアーティストの方の力を借りることもあるし、小さい部分ではコーディネーターのアイデアでやってきたことはたくさんある。
- ・このように今まではやってきたと思っている。
- ・予算がだんだんと少なくなっている中で、どこまでアーティストの方を起用できるかという部分も変わってくる。

【J 委員】

- ・少し気になったが、公的機関なので、売上の話はしにくいと思うが、予算が減ってきているということで、どれだけ売上が立たせるかという視点も、ある程度は必要なのかなと思っている。
- ・そうすると、お金が発生するポイントはどこなのかと考えた時に、貸館とテナント料などがあると思う。
- ・はっちを、市民の皆さんにたくさん使って貰うことも必要だろうと思った。
- ・売上げをあげないと、建物を維持して行くのが非常に難しいと思う。

- ・観光としての要素もはっちにはあると思うが、無料で観られることは良いところであり、悪いところであると思う。
- ・お金（売上）が欲しいと思うと、キャッシュポイントどうしたらよいか、というようなことは考えたい。

【ファシリテーター】

- ・費用や利益の部分考えたが、（現在のはっちの）使用料や賃料の値段では、利益はそもそも出ないと思う。
- ・そもそも公共施設の場合は、利益を上げないとやっていないというのではなく、必要だからやるという点を重視しなければならないと思う。
- ・だから、イベントを実施する時に、自分のパフォーマンスがしたいという点に価値を見出す人、無料（安価）でやってくれる人を探したりするのが、大変なところなのかなと思う。

【K 委員】

- ・今、全体の大きな話になっていた中で、話が戻るが、目指す「8つの未来」に沿った5年間の評価（案）1ページの課題について。「暮らし学アカデミーに参加したリピーターがプロデュースした企画2件実施しましたが、新しい活動を生み出すまでには至っていません」これが失敗に終わっているような書き方がされているが、私は企画を2件実施したところというのは、やはり評価できる場所だと思っている。
- ・「新しい活動を生み出すまでには至っていません」というと、「あ、どんな失敗だったのだろう」とか、私達も自分が発表する側にいるので、せっかく実施したものが、こう称されているのかと…。
- ・課題なので、そういう書き方になるかと思うが、2件も実施できたという方をもう少しアピールして、どうしたらそれが活動になっていくのだろうかというような課題の書き方の方が良いのかなと（思う）。
- ・この書き方だと、全部やったことがマイナスな感じがする。自分たちがすごい力を練って一生懸命やったことが、「次、せっかく企画したけれども、もう次はやりたくないな」というがっかりした風にならないような書き方になると良いなと感じた。

【L 委員】

- ・私も同じこと考えた。
- ・せっかくなら、例えば「成果と課題と分けてこういう成果がありました、その中で結果と今後の課題です」という方が分かりやすいと思う。
- ・課題のところに書いているのは、今後何をどのようにクリアしていくのが、分からない文書になっていたの、そこをもう少し手を入れていただけると。「今までこういう成果があって、その中で今後はこういう風なのを…」という方が次に繋がりやすいと思う。

【ファシリテーター】

- ・その点は、事務局で検討していただければと思う。

【M 委員】

- ・（前回の）中期運営方針を作った時期は、コロナもあって一番大変な時だったと改めて思った。
- ・2021年2月11日がはっち10周年で、2021年11月3日に美術館が開館した。
- ・しかし2021年の9月10日には、三春屋が全体を縮小するという話をして、2022年の4月には閉店した。2022年の9月にはチーノが閉館し、フォーラム八戸が閉じていくわけだが、はっちの入館者数が戻りきってないのは、三春屋とかフォーラムに来ていた人が、はっちにも寄っていたという点が相当数あったと思う。
- ・一方で美術館が建ったので貸館の稼働率が多少下がっても、美術館のギャラリーの利用率を足すと、実は八戸市民の活動としては、プラスになっているはず。相乗効果は確実にある。
- ・はっちだけの利用率などで考えると、落ちたのがまだ戻りきってないように見えるが、実は中心街の施設を一緒に見ると、またそこは違う数字も見えてくるところもある。
- ・先ほど課題のところでも話したが、10年、15年経つと新しくできた施設のほうが注目されることは当然ある。
- ・美術館や他の施設も該当する。
- ・また最近と同じようなイベントがあっても、例えば階上町の「わたしの素ペース」など民間でやっているギャラリーや小さいスペースの方が、割と広報もちょっと尖って出しやすかったりする。
- ・単純に、早く広報をパッと出しやすかったという点がある。
- ・はっちが建った時は、はっち以外にそういったところがなかったのも、はっちが全部求められる側だった。
- ・しかし美術館やブックセンター、民間の活動などがある中で、求められる事業は変わっても良いと思う。
- ・足し算したら、確実に八戸市民の活動自体はあるのではないかなと。

【N 委員】

- ・今の話を続けていいのであれば、（階上町に）「わたしの素ペース」などがあるので、はっちでやらなくてもいいのではないかと考えていいと思う。
- ・他の施設と競合していく必要もない。
- ・また、新しい活動を参加者が生み出していかなければいけないみたいなのが、なんか結構強いというか、マッチョな感じだなというのが気になっていた。
- ・自走していく参加者を生み出すということが目的なのだろうか、というのを疑問に思ったところもある。
- ・ずっと並走、ゆるく並走して一緒にやっていく形でも良いのではないかなと思った。
- ・「参加したい」という人と、「何か企画したい」という人の種類は、違う部分があると思う。
- ・絵を見るのが好きだからといって、ゴールは絵を描くことではないと思う。

- ・ずっとそれを発展させていくこともできると思う。
- ・そういった形で言うと、例えばファーマーズマーケットも、「後は全部お願いします」ではなく、もう少しゆるく一緒にやっていく、そういう形でもいいのかなと思うこともある。
- ・M 委員がさっき仰ったように、はっちが1期2期ときて3期ということで、こう自立、自発的に何かを活動していく市民をたくさん育てるというミッションに入ってきているということではないか。
- ・結構それは大変とか、レベルの高いことを構想されているのかなと思った。

【0 委員】

- ・多分、そういう「ミッション」というのは全然ないと思っている。
- ・色々なものがある中で、そういう人たちもいてもいいだろうし、ただ毎日ここにぶらっと来る人たちで（はっちが）もっているところもある。
- ・ただ、先ほど別委員が仰ったように、中心街の住民の年齢層も、かなり変わってきている。
- ・マンションが立ち、これから旧チーノ跡地に大きなマンションが2つ建つとなると、どれくらいの人口が入ってきて、どういう人たちが住んでいるかというリサーチもすごく必要だと思う。
- ・そのような中、私たちの年代は、ちょっとコーヒー飲んで、何もなくてもウィンドウショッピングして、ただここを歩けるだけでもいいなと思うが、そんなお店もなくなってしまった。
- ・では、そういった中で、（何か）そういうことをしたい人たちをどのように集めたらいいか。
- ・意外なことに、マンションの住人は高齢な人ばかりかと思ったら、結構、赤ちゃん連れもいる。
- ・そういう人たちは、例えば1週間のうち平日は仕事をしているけど、土日はどういう風に過ごしているのか。
- ・はっちは、もう「八戸の顔」になっていると思う。
- ・新しくできた美術館やYS アリーナ、劇場とは全く違う営みがここにある。
- ・だから、私ははっちの「直営」の意味はそこにあると思っている。
- ・決してお金は生み出さないけれど、たくさんの人の出会いと、そこから育つ人と若い人達はここ（はっち）を見ている。
- ・例えば、地域でいうとコミュニティと同じだと思っている。
- ・地域コミュニティの中に、例えば、お祭りや地域の人が育って、例えば八戸から1回出たとき、（八戸は）良かったなと思ってくれるようなものを、はっちは八戸市の全域を対象にしてやっていると思えばいいかと思う。
- ・それは「直営」でなければやはり出来ない、と私は思っている。
- ・それは全国的に見ても無い事例だと思う。
- ・伴走もすごくいいと思うが、やることもいっぱいになると思う。
- ・しかし、先ほどのように、何かやりたい人を集めるのはすごく難しいと思っている。
- ・まして直営だから、いろいろな人が今でも一緒にやるとか、これはすごいケース。
- ・実は、こどもはっちもやるのがたくさんあり、それを振り分けるというのは、行政では無理ではないか。
- ・（行政は）みんなに平等でなければならないから。

- ・ただ、求めている人は自分の好きなものだけを見たいとか、これには興味あるけどこれには興味ないと言う人達がいっぱいいる中で、はっちのコーディネーターもいろいろなものをやらざる得なくなっているっていうジレンマもあるかもしれない。
- ・だから、これから今度の計画を立てる上で、やはり、目的は中心街にあると思う。
- ・今、さらに（美術館などの）新しい施設が建っているが、連携の核となるのは「はっち」でいて欲しいと思っている。
- ・なぜならここに一番多種多様な人が集まって、色んな情報もきて、発信もできるから。
- ・YSアリーナや図書館、ブックセンターもあるが、中核は「はっち」であるべきと思っている。
- ・そのためには、（他施設と）競合するような事業は、無理にやらなくても良いと思う。
- ・例えば、わざわざどこからアーティストを呼んでパフォーマンスをやるとか、それは例えば美術館でもできるだろうし、例えば公会堂を受託運営しているアート&コミュニティが、舞台作りもたくさんやっている。
- ・そういうのは、（施設間で）リンクしてやってかないといけない。
- ・これから人もいない、お金もなくなるというのに、同じような事業を多少違ってても、もし目的でどこかリンクするのであれば、事業のリンクもどんどんしていく。
- ・そのコーディネート、はっちでやる事ができれば私はすごく良いかなと思っている。
- ・そうすると、そこに私たちみたいな福祉の分野の団体もいけるし、教育もいけるし、文化協会もいけるとなっていく。
- ・はっちは、財産がものすごくいっぱいあるので、そこをなんか上手く生かせるような運営の仕方というのを考えると、オープンしたときとは形が少し違って当たり前だろうし、若い市民活動の人達もいっぱい育ってきているわけだから、違ってきて当たり前なのかなという感じである。

○「第4期中期運営方針」についての意見交換

【ファシリテーター】

- ・次は第4期中期運営方針についての意見交換に入るが、第3期方針と第4期方針という明確な区別はないと思うので、（意見は）混ざっても良いと思っている。
- ・ここでは、第3期中期運営方針を見直すような観点や、第3期方針をベースに新しい視点加えてはどうか、といったご提案があれば伺いたい。
- ・別委員からもご意見あったように、時代もある程度変わってきたので、はっちの役割も変わっていても良いというご意見も、1つの観点になると思う。
- ・色々な意見を出して頂きたい。

【A 委員】

- ・今回の評価の話を聞いて「8つの未来」を考えた時に、“観光”の部分における役割が、小さくなっていると感じている。
- ・はっちが、「観光拠点みたいなもの」として、何かを背負う必要もあまりないのかなと、個人的に感じる。
- ・それこそ、八戸には「えんぶり」や「三社大祭」といった何百年と続く文化があるので、それはワラッセ（青森市）のような別の文化施設をつくって、そこで入館・入場料をいただく方が、文化財としての価値も上がるだろうし、そうした方がいいのかなと個人的には考えている。
- ・そうなった時に、はっちの役割は、先ほど別委員が仰ったように、地域のみんな、多種多様な方々がいらっしゃる建物であるべきだなと考えている。
- ・私は、高校の授業にたまにお邪魔させていただいているが、そこで女子高校生達が“はっちの、フリースペースのリビングの机をおばあちゃん達とせめぎ合っている”という話をきく。
- ・「私達（高校生）は勉強したい、テストで学校が早く終わったのでみんなではっちで勉強しようと来たけれども、おばあちゃん達が机を占領していて、私達は勉強が出来ない」
- ・そんな話を聞いた時に、そこでせめぎ合うのではなく、共に座って共生できるような仕組みがあると良いなと感じた。
- ・少子化は進んでいるが、もっとこう学生たちが主体的・中心となって、はっちを運営していくフロアが1つあってもいいのかなと思う。
- ・現在も、それこそ「はっち放送部」も実施しているし、「パフォーミングアーツ」のワークショップも実施していると思うが、ユースセンター（若者の第三の居場所）みたいな感じで、学生達の居場所として、はっちがあって良いのかなと感じた。
- ・そこで学生達が、おじいちゃんおばあちゃん達に戦いを挑むのではなく、「あ、こっちの席に座る？」「こっちで一緒にお茶しません？」みたいな空間が生まれてくれれば、はっちらしくて良いと思う。

【B 委員】

- ・私ははっちが開館したときからはっちのことをずっと見ているが、当時と比べて、色々な事業がたくさん生まれてきている。
- ・はっちに来たら、絶対誰かに会って、話が弾むようなところもあり、本当に良い施設だと思う。
- ・何が良いかというと、やはり外から見える「はっちひろば（1階）」が素晴らしいと思う。
- ・だから八戸市でも「はっちひろば」を使って色々なイベントをやっているのだと思う。
- ・もったいないなと思うのは、「シアター1」の搬出口のカーテンが結構閉まっていること。
- ・こういう会議の時は仕方がないが、（使用がない時は）裏側（番町スクエア）から来た時、カーテンが閉まっているところが残念。
- ・使用がない時は開いていたり、何かあると良いなと思った。

【C 委員】

- ・はっちは、色々な人が関われる、色々な人が参画できるという点が魅力なのかなと思っている。

- ・人と人だったり、企業だったり、いろんな活動だったり、色々な人たちが繋がる、そういう場というのが一番大きな役割かと思う。
- ・時代と共に、はっちがやっていることも変わっている中で、守るべきことは守りつつ、今後の方針を考えていかなければならないと思うが、その中で思ったのは「情報発信」の部分。
- ・色々な事業をやってすごく素晴らしい活動をたくさんやってるのに、（やっている事業が）あまり知られていない、はっちがこういうことをやっているのを、知らない人もたくさんいると思っている。
- ・私の場合、色々な会議に出るので、はっちの「イベント情報チラシ」を持って帰ることがよくあるが、妻に渡したら、こういうイベントがあるんだと言われる。
- ・多分それ（イベント情報チラシ）がないと、はっちの事業を知らない人たちが結構いると思う。
- ・もちろん、はっちに来てもらい「お知らせ」とか「チラシ」を（各々）取りにくればいいのだろうが、それ（チラシ）以外にもいろんな媒体があった方がいいのかなど思ったりもする。
- ・はっちに来た時も「紙」だけではなくて、大きい「タッチパネル」とか。
- ・あとは活動について、その日に実行だったら、ジャンルごとに事業が分かれていると見やすい。
- ・分かりやすくお知らせできるようなものが何かあると良いと思う。
- ・中心街の人たちだけではなく、市内全域の人たちがはっちに集まれるような、拠点になるような施設になると良いのかなど。
- ・そういうはっちになるためには、情報発信がある程度必要だと思う。
- ・中心街関係で新聞にも載っていたが、ストリートデザインの事業が進めば、空間づくりが改めて固まってくると思うが、それと連携をしていくことも、今後考えていく必要がある。
- ・そのストリートデザインも、市民が主体的にいろんなものを活動できるような場というような位置づけもあると思うので、それもはっちとコラボして広がりができるのかなどということも踏まえて、第4期方針を考えた方が良いのかと思う。

【D 委員】

- ・先ほど「ユースセンター」の話があったが、そういうスペースがあっても良いと思う。
- ・「フロアを（つくる）」というと工事が大変だが、若者とか学生だけがいるというよりは、三世代で共有できるような感じ。
- ・今時点のはっちも、既にそういう状態だと言えばそうだが、フロアの使い方を高校生達に考えてもらうというのもいいかもしれない。
- ・逆に言うと、例えば完全に（若者・学生だけに）固定するのではなくて、シアター2は月に2回は映画館となって、市内の映画団体と一緒に上映会が定期プログラムとしてあるとか、可変的にフロアの使い方を変えていく。「毎月〇曜日はこうします」で分かりやすくするとか。
- ・やはり市民の人に借りてもらってナンボというところもあり、貸館を増やしていかなければということもある。
- ・自主事業の両立というところで、運営の方々は皆さん苦勞されていると思うが、貸館と自主事業の中間みたいなものを取り入れることで、ドラスティック（思い切った、猛烈な）にフロアを

ガバッと映画館のしつらえを変えてしまうとか、ガバッと観光展示を壊してユースセンターにするとかというよりは、可変的な使い方で定期的に変えていくというようなやり方がいいかなと思う。

- ・あと、別委員が仰った「情報発信」の部分でいうと、資料1（6）視察の受入数において、全国の市町村視察研修ランキング、2019 ではちちが11位にランキングされ、全国的な注目を集めているところがある。
- ・私も覚えていたのが「全国市町村視察研究ランキング2019」で、はっちは視察数が全国11位だった。
- ・お隣の岩手県紫波町にあるオガールという施設は、オガールプロジェクトという名前で施設自体のことと、オガールが企画している市民事業についての企画など4本ぐらいを束ねて、オガールプロジェクトの視察数で算出し、2019 に日本一になった。
- ・この時、はっちは単体で11位だったが、ブックセンターや他の施設を足し算すると、はっちを含めた中心街の公共施設文化プロジェクトではないが、計算したら全国2位だった。
- ・なので、はっち単体のPRもあるが、外への見せ方は、他にも色々あるのではないかなと思う。

【E 委員】

- ・ポータルミュージアムというのは、「入口」ということが、一番の特徴なのではないか。
- ・ワラッセのようなものができればいいが、仮にできたとしても、はっちに三社大祭を扱う部分が合った方がいい。
- ・音楽も美術も本もある方がいいし、そこからまた繋げていくことが、はっちとしての機能が一番生きていくと思う。
- ・周辺環境の変化でいろいろ変わってきたと述べているが、基本的には広く維持していく。
- ・大変だとは思いますが、はっちの良さが生きていくのはこの部分をキープしていくことだと思う。
- ・また自立・自走化した活動が増えていくのは、評価としてはアピールポイントにしやすいが、生産的ではない人達がただ参加できるようなことがたくさんあるということも、非常に重要な役割となってきており、かつ評価されにくい部分でもあるかと思うが、そこを評価して義務化して存在価値をアピールしていくこともできればと思う。

【ファシリテーター】

- ・ポータルミュージアムとして、変わってはいけない部分と、変わるべき部分を、精査して考えていかなければいけないということだろうと思う。
- ・私も、高校の方で総合探求の授業を手伝っている中で何回も言ってるが、高校生を巻き込むということで、高校生に1回ぐらい会議ではないが、若者会議のような高校生の立場から意見を出すような会議開き、少し大げさだがそういう意見を発表する場も設けるなどすれば、今後の第4期の方で進んでいければ、高校生が八戸に対する参加っていうのも意識づけできるのかなと思う。
- ・高校に行くと「やっぱり中心街が随分衰退してきたね」というのは真剣に考えているようなので、じゃあどうすればいいのか、というのを総合探求の授業でやっているの、少し高校生から意見を求める場をどこかで作っていただければ良いのかなと思っている。

- ・これは、他の委員も考えていることだと思う。
- ・そろそろまとめに入るが、もう一言お話ししたいという委員の方がいらっしゃればお願いします。

【F 委員】

- ・まとめではないが、若い方の意見を聞くことはとても大切だと思う。
- ・しかし、実は今の高校生とても忙しい。
- ・いろいろな場で高校生、高校生と言われ、高校生を一過性の使いばかりしている。
- ・例えば、ボランティアではその日に来て終わり、「はい、今日はこっちのチームで総合探求です」など、最近、大人の事情で子供たちを動かさせ過ぎだと感じる。
- ・私ははっちには、（高校生を）そういう使い方はしてほしくないと思っている。
- ・なのでもしそういうことをするのであれば、年間をずっと通しで、これだけに関わってくれる人、例えばプロデュースを学びたい子にはずっと張り付いて、その子を育てるとか。
- ・本当に高校生は大変で、だから大事に育ててあげてほしいと思うところがあるので、大人として今後の関わり方をすごく考えてほしい。
- ・居場所については、高校生と高齢者の席の取り合いは良いと思っていて、むしろ喧嘩してもいいなと思っている。
- ・なぜならそれくらい（高齢者と高校生は）出会わない。
- ・はっちだから、そのような場面が起こっている。
- ・実は、本来、地域でそういうものがあるべきで、例えば地区の公民館などであるべきだが、そういう場が（今は）ない。
- ・だから、はっちで、私たちみたいなシニアと高校生がかち合うのは、すごく素敵なことだと逆に思う。
- ・そういった問題意識の中から、ではどうするかということを、自分達から発信していけるような子供に育ってほしい。
- ・子供たちの居場所だが、はっちではなくても、例えば大学のラボだって、使っていない場所がほかにもいっぱいある。
- ・もし、本当にそういう子供たちがいるのであれば、大人として、そういう場所をどう作ってあげるか、誰かが考えるかというところまで、考えられる大人がここら辺にたむろしているのが、実は一番いいのかなと思っている。
- ・問題意識をすくい上げた時に、じゃあ次にどういう風に繋げていくかという、そういう人材はおそらくたくさんここに繋がってると思う。
- ・だから、そういう動きも、ここから生まれたらすごく素敵なのかなというのに思った。
- ・とにかくはっちは良い建物なので、これからも市民にいっぱい応援してもらって、いろんなことができる場所であってほしいと、そういうことが次の計画に繋がると嬉しいと思う。